

A 16 金刀比羅宮表参道のみやげ物店における生活構造

(第1報) 世代間の分離と共同度

香川大教育 ○上玉啓子 時岡晴美

目的 自営業世帯の家庭生活については 勤労者世帯と比較するとその特殊性により合理化が遅れ、家業の継承を伴う世代交代が困難になってきている。このような中で、一地域に同じ業種の商店が集合している門前町をとりあげ、長い伝統を持ち継承が原則とされているみやげ物店における世代交代の状況やそれに伴う家庭生活の現状とその問題点を明らかにしたい。

方法 香川県の門前町琴平は15cより「讃岐のこんぴらさん」として全国的信仰が高まり「五百長市」と呼ばれ百工千職の栄えた町として一連の続いた町並を形成した。この金刀比羅宮表参道石段沿いにみやげ物店が大門まで続いているが、54軒のうち家族を中心に経営している42軒を対象とし、家族構成、家族周期、生活時間、生活空間、生活設計など昭和63年11月7日～12月1日の期間、聞き取り調査をおこなった。

結果 金刀比羅宮表参道のみやげ物店は、代々親世代から子世代へと継承されてきたが子世代が結婚と同時に親世代と同居していた形態から次第に子世代が他出し、老親が残されるケースが増加している。核家族世帯では店の存続に不安がみられ、拡大家族世帯では店の経営には両世代間の共同度が大きい。家庭生活には分離面もうかがえる。店の経営は毒の手に代々受けつがれ、夫は勤め人としてほとんどタッチしていない。どの形態の世帯とも、特に嫁に対してみやげ物店継承の期待が親世代に強くみられる。さらに娘が継承する場合もあり、そのため婿養子が多くみられた。